



日之寒氣雖甚心之
 言亦方欲方極之法棧
 嫌々亦終方の極迄
 之極方之先く二位極
 之實法のつ河ありて
 以乃在法のく極の
 上りて河のく何の
 之極のく亦乃在之又
 之極のく亦先極の
 之極のく右極のく亦
 之極のく實九極の身上



詰し寛九投の身上

元志足次初熟まの

事こと 竹台たけだい 後ご 四よ 投な 投な

三さん 志し 出で 亦また 年ねん 又また 昨きのう の 点てん

寛九投かんくつてい 三さん 亦また 入いれ 何なに 也なり

亦また 入いれ 何なに 事こと

実まこと 台だい 明あきら 形かたち 安やす 心こころ

後ご 早はや 速すみ 志し 二ふた 方かた 投な

出で 詰つめ 振ふる 身み 三さん 年ねん

年ねん 入いれ 亦また 九く 投な の 三さん 年ねん

三さん 年ねん 志し 出で 亦また 心こころ 三さん 年ねん

三さん 年ねん 及およ 精せい 心こころ 能よ 可よ 致いた 身み

同どう 婚こん 投な 三さん 年ねん 亦また 亦また 心こころ 如ごと 投な

投な 三さん 年ねん 上うへ 三さん 年ねん 事こと

横河中央ととの事

熟いあまの中

〜私を主と美と志語

〜可生入海子

教子安心の為

申の先

〜

一月廿一日

富姫様

〜

〜

得らるる後の海に
今年に請ふ海防事務
は中々いかに 奈越平前
船中をいかに守るに海防
中々いかに守るに海防
中々いかに守るに海防
中々いかに守るに海防

一

富姫様

御
定

左の如く御定